



第4章 体育センター 研修会報告

県立体育センターでは、平成10年度より「障害児体育研修会」として、知的障害及び肢体不自由を対象として、研修会を行ってきました。本章では、平成15～18年度に行われました研修会について、一部を要約し掲載いたしました。研修会について、詳しくご覧になりたい場合は、県立体育センターにお問い合わせください。

<平成15年度>

【講義・実技】「障害のある子どもの運動発達について」 「知的障害児の運動学習の実際」

講師：東京福祉大学 教授 是枝 喜代治

<内容>

- 1 発達を支援する運動学習の進め方
- 2 運動の発達段階
- 3 身体適性と運動発達の一般法則
- 4 運動発達の方向性
- 5 障害のタイプに応じた運動指導のねらい
- 6 アセスメントから運動指導の課題を考える
- 7 知的障害児の運動学習の基本軸
- 8 障害のある子の運動学習の実際
 - (1) 感覚運動による支援
 - (2) 知覚運動による支援
 - (3) 精神運動、社会性運動による支援
- 9 運動学習を進める上での配慮事項
- 10 知的障害児の運動学習の実際
 - (1) 準備運動について
 - (2) 課題運動について
 - (3) 社会性運動について

【講義・実技】「肢体不自由児の運動学習の進め方について」 「車椅子を使用した体育学習の実際」

講師：県立総合教育センター 研修指導主事 大西 祐二

<内容>

- 1 指導内容を考える前に行わなければならないこと
児童生徒の現在の状況を十分理解する方法
- 2 運動を育てていく視点

- (1) 運動の発達について
- (2) 運動の発達の場について
- 3 運動学習の組み立て方について
- 4 実際に運動学習のプログラムを考える

【講義・実技】「障害児のよりよい水泳指導のあり方について」

～水中ムーブメントの基本的概念～

「障害児の水泳指導の実際」 ～水中における身体意識～

講師：特定非営利活動法人日本災害救護推進協議会〔JAEA〕 荒井 正人

< 内容 >

- 1 発達について
- 2 感覚と運動の統合
 - (1) 感覚入力処理過程と適応反応 (2) 脳幹の機能
- 3 温水プールの特性と指導上の留意点
 - (1) 生理学的な側面の特性 (2) 水中指導における特性 (3) 指導上の注意点
 - (4) 指導の流れ
- 4 身体意識
- 5 障害児の水泳指導の留意点
 - (1) 知的障害児の水泳指導の留意点 (2) 運動障害児の水泳指導の留意点

< 実技内容 >

- 1 背浮きの姿勢（水平姿勢）での頭部、体幹のコントロールを促す
- 2 垂直（立位）姿勢での歩行を促す
- 3 遊具を使ったプログラム

< 平成 16 年度 >

【講義・実技】「肢体不自由児の運動指導の原則と指導法」

講師：県立総合療育相談センター 理学療法士 井上 保

< 内容 >

- 1 ICF（WHO・2001.5）の障害概念について
- 2 肢体不自由児の基礎疾患
 - (1) 脳性まひの特徴 (2) 二分脊椎症・水頭症・脊髄損傷の特徴
 - (3) 神経筋疾患の特徴 (4) 骨関節疾患の特徴 (5) その他の疾患の特徴
- 3 障害の発生と病態の経過
- 4 筋運動と筋収縮について
- 5 相反神経支配について
- 6 運動パターンについて
- 7 反射・反応について
- 8 発達の原則

- 9 介入・介助・援助・支援
- 10 リハビリテーションチーム・アプローチについて
- 11 個別教育計画について

<平成 17 年度>

【講義・実技】「知的障害児の体育指導」 ～ムーブメント教育の理論と実践～

講師：横浜国立大学教育人間科学部附属養護学校 教諭 根立 博

<内容>

- 1 ビーンズバックを利用したムーブメントの紹介
- 2 ムーブメントでめざすことから
 - (1) 感覚運動、知覚運動、精神運動の向上
 - (2) 身体意識能力(身体像、身体図式、身体概念)の向上
 - (3) 時間、空間、因果関係意識の向上
 - (4) 心理的諸機能の向上
- 3 ムーブメント教育を取り入れた学習の特徴
- 4 ムーブメント教育を取り入れた学習の授業者の留意点
- 5 アセスメント
 - (1) 「MEPA」「MSTB」「BCT」「視空間知覚と運動の統合能力把握のためのチェックリスト」の紹介

<実技内容>

- 1 風船を利用したムーブメントの紹介
- 2 フラフープを使ったムーブメントの紹介
- 3 ゴムバンドを使ったムーブメントの紹介
- 4 グループでのプログラム作成及び実践

【講義・実技】「肢体不自由児の体育指導」 ～楽しい運動実践編～

講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター体育科 科長 尾鷲 誠

<内容>

- 1 アダプテッドという考え方
- 2 指導上の留意点
- 3 用具の工夫
- 4 難しいから簡単への楽しい進化

<実技の内容>

- 1 様々なスポーツにおいての用具の工夫、ルールの工夫。
 - (1) フォークダンス (2) 卓球 (3) バランスボール (4) ボクシング
 - (5) ポッチャ (6) パレーボール (7) シットティングパレーボール
 - (8) ローリングパレーボール (9) ベースボール (10) その他の運動

【講義・実技】「肢体不自由児の水泳指導」

講師：相模原市中央保健センター 主任理学療法士 眞保 実

< 内容 >

- 1 水泳指導の理論的背景
 - (1) 水の特性 (2) 水中安静時の生体反応 (3) 水中運動時の生体反応
- 2 プール環境で留意すべき事項
 - (1) 水質管理 (2) 水温・室温 (3) 音の響き (4) 水着
- 3 水泳指導にあたっての注意
 - (1) 「発達の原理」を考えた指導
 - (2) 指導における禁忌事項の確認
 - (3) 子どもの成長に伴う臨床像の変化に応じたプログラムの変更
 - (4) 楽しむことを目標にした指導
 - (5) 子どもの反応の確認
- 4 水泳指導のプログラム
 - (1) 姿勢変化の進め方
 - (2) 運動の方向
 - (3) 発達に問題を有する子どもの運動上の問題点と指導目標

< 実技内容 >

- 1 抱っこ（水慣れ）
 - (1) 対面位による密着 (2) 対面位での腋窩支持 (3) 反対面位による密着
 - (4) 反対面位での腋窩支持
- 2 振り子（水の抵抗などの物理的要素を体感していく）
 - (1) 左右：水の抵抗を体側で感じとる
 - (2) 前後：水の抵抗を背側・腹側で感じとる
 - (3) 上下：前庭感覚への刺激を入れる
- 3 スネーク（水に乗るという感覚を学ぶ）
 - (1) 左右に揺らしながら指導者が後退する
 - (2) ジャンプしながら指導者が後退する
- 4 背浮き（背臥位は浮力を一番多く受ける姿勢のため進め方に注意）

< 平成 18 年度 >

【講義・実技】「知的障害のある児童・生徒のための体育指導の基礎基本」

～ 感覚統合のアクティビティ紹介を中心に～

講師：YMCA 福祉スポーツ研究所 所長 小野 晃

< 内容 >

- 1 感覚統合の理論的背景
 - (1) 感覚統合の基礎となる感覚器
 - (2) 感覚統合による行動変容

- 2 プログラム作成上の留意点
- 3 プログラム作成上のカテゴリー
 - (1) 姿勢条件 (2) 移動の条件 (3) 運動要素 (4) 運動要素の目標・方向
 - (5) 体力要素 (6) 身体部位 (7) 道具 (8) 学習要素 (9) スキル
 - (10) 感覚 (11) 知覚・認知 (12) 協応力
- 4 プログラム作成上の留意点
 - (1) スモールステップの法則
 - (2) 明確で具体的な指示
 - (3) 情報化
- 5 実践プログラムの紹介
 - (1) 知的障害児における感覚統合野外キャンププログラム
 - (2) 知的障害児における感覚統合雪プログラム

< 実技内容 >

- 1 個別でのプログラム作成
- 2 グループでのプログラム作成及び実践

**【講義・実技】「身体に障害のある児童・生徒のための体育指導の基礎基本」
～インクルーシブ体育の視点から～**

講師：東洋英和女学院大学 教授 西 洋子

< 内容 >

- 1 身体に障害のある子どもと身体活動 ～考え方の基本～
 - (1) からだを使った遊びの経験の不足及び運動不足の傾向について
 - (2) 体育を行う前のバリアについて
 - (3) インクルーシブ教育の基本的な考え方について
- 2 インクルーシブ体育における教師の意識変容のプロセス
 - (1) インクルーシブ体育教育に対する教員の不安について
 - (2) インクルーシブ体育の導入について

< 実践内容 >

- 1 「みんなのダンスフィールド」演技発表
- 2 みんなでウォーミングアップ
- 3 アイマスクを使っでの基本動作
 - (1) 歩く・走る・跳ぶ・投げる (2) 二人での縄跳び
- 4 車椅子を利用した体育体験
 - (1) 車椅子の基本操作 (2) インクルーシブダンスの体験
 - (3) インクルーシブスポーツの体験